

ギネスに挑戦!!!

平成22年6月13日、達成!!!

2500メートルの流しそうめん プロジェクトの軌跡



2010.6.13 第30回「全国豊かな海づくり大会(御嵩サテライト会場)」

第27回みたけの森ささゆりまつり

第30回「全国豊かな海づくり大会（第27回 みたけの森ささゆりまつり）」 と「ギネスに挑戦！2500メートルの流しそうめん」

第30回「全国豊かな海づくり大会（第27回 みたけの森ささゆりまつり）」は、平成22年6月12日、13日の両日に開催し、6月12日は主に、「可児川清掃活動」「鮎の稚魚放流」「記念植樹」の3つの事業を実施しました。これらは、本事業の主旨でもある御嵩町の豊かな自然を背景に、清流の維持、森林の保全など、上流域の意義を次世代の子どもたちに伝えていく実践的な取り組み事業と位置付けました。

翌日の6月13日は、「ギネスに挑戦！2500メートルの流しそうめん」「ステージイベント」「お楽しみ抽選会」「地産品等の出店」「魚のつかみどり」「つりぼり」「野点(のだて)」「鵜飼実演」「ネイチャークラフト教室」「ささゆりハイキング」などのイベント事業を通して、豊かな自然の残る「みたけの森」をフィールドに、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さんお母さん、そして次世代を担う子どもたちなど、多世代にわたって楽しみながら自然の尊さを体験する機会としました。

なかでも「ギネスに挑戦！2500メートルの流しそうめん」では、整備されないまま放置された森林が大きな環境問題になっていること、そして同様に放置されたままの竹林も問題となっている点に着目し、私たちに何ができるのか？を考えました。このチャレンジがすべての竹林整備につながるものではないかもしれませんが、「竹」をテーマに、「森」から「川」、そして「海」へと流れる清流をイメージして、上流域の豊かな自然を知っていただくために、そして、この「全国豊かな海づくり大会」を通じて、自然の尊さを訴えるきっかけづくりとして企画しました。



ギネス記録とは…

1951年、アイルランドのビール会社「ギネス醸造所」の代表取締役だったサー・ヒュー・ビーバーが狩りに行った際、「狩りの獲物のうち、世界一速く飛べる鳥は？」という議論をしたことがきっかけで、このような疑問に答える本を出せば売れるのでは？と、出版したのが「ギネス・ワールドレコード社」発行の「ギネス・ワールド・レコーズ／ギネス世界記録本」で、現在、毎年9月に発行されるこの本は、様々な分野の世界一が何かを認定、掲載しています。

登録には、ギネス世界記録のウェブサイトから申請し、自分の住所や名前、電話番号、内容や理由などを書きます。英語での申請は無料ですが、申請には6～8週間かかります。

また、2008年3月からは全文日本語での登録申請が可能となりましたが、その場合の申請料は1000ポンド(約132,000円)ほどかかるとのこと…。

申請内容が記録カテゴリーとして認められた場合は、ギネス世界記録本部から記録挑戦のためのガイドラインなど必要書類が送られてきます(今回の「ギネスに挑戦!!!2500メートルの流しそうめん」は、ガイドラインが無事届きました!)

その後、記録の挑戦内容を写真やビデオでわかりやすく収め、それを郵便でイギリスの本部に送り、記録が認められればギネスから認定書が届きます。ちなみに、ギネスには毎年6万件以上もの応募があるそうです…(御嵩町で達成した2500メートルの流しそうめんギネス記録は、現在記録を申請中)。

そのほか、おもしろいサービスとして、イギリスのギネス世界記録本部で働く認定員に、記録挑戦の場に来てもらうよう依頼することもできるそうです。ただし、移動費や人件費などの費用は申請者の負担となるため、今回は涙をのんであきらめました…。

※現在ロンドン本部には日本人の認定員が1名おり、認定を依頼することも可能なのだそうです。

ギネスに挑戦!!!

2500メートルの流しそうめんプロジェクト始動!!!

《上流域の豊かな自然を伝えるために…》

平成22年6月12、13の両日、「第30回全国豊かな海づくり大会」が岐阜県下で開催され、各市町ではサテライト会場として趣向を凝らしたイベントが盛大に開催されました。

ここ御嵩町では、農林課が主体となって若手職員5名による準備会が発足、海づくり大会に向けてプロジェクトが始動しました。そのなかで「せっかく機会をいただいたのだから、「やらされている」という考え方ではなく、自分たちも楽しみながらインパクトのある事業にしたい!」との意見で一致しました。

そしてテーマとして、海のない県「岐阜」で開催する「海づくり大会」であることから、豊かな海を育む基礎となっている上流域の「山」や「川」に着目し、町に接する木曾川、そしてその支流の可児川、さらには地域の豊かな自然と密接に関わる「環境」をテーマに、身近なところにある「みたけの森」をフィールドとし、これまで5月におこなってきた「みたけの森まつり」をスケールアップし、「みたけの森ささゆりまつり」として開催することとなりました。

《「お前ら、本気か…!?!」》

とは言うものの、「インパクトのあるイベントとは…?」さらに「上流域の豊かな自然を伝えるイベントとは…?」と、準備会では当初頭を痛めましたが、答えは竹を割ったように意外と早く導き出されました。

①近年問題になっている「竹林問題」。これは豊かな里山を守るために、森林の整備と同じく竹林の整備が不可欠であること。②海のない岐阜県が、上流から下流、そして海へとつながる「流」をイメージできるもの。③話題性も併せ持っていること。などから、誰が口火を切るわけでもなく「流しそうめでギネス記録にチャレンジなんてどう…?」その一言から、今回の挑戦がスタートしました。

そしてこれまでの記録を調べてみたところ、福岡県田川郡福智町で2006年に達成した「2345メートル」が現在の日本記録であることがわかり、この記録を超える「2500メートルにチャレンジしよう!!!」と、準備会では大いに盛り上がりました。

しかし周囲の反応は…「お前ら、本気か…!?!」「ちょっと無理でしょ?」と、意外にも冷静な反応が大半でした。しかし、周囲の反応が冷めていた分、今振り返れば準備会メンバーのなかには沸々と心の中に燃え上がるものがあったのだと思います。



準備～設置、そしてギネス記録の達成へ!!!

《準備から設置へ…》

周囲の冷静な反応をよそに、平成21年11月中旬から竹レール設置の実験をおこない、翌年2月17日からいよいよ本格的な準備作業へと入りました。

レールとして必要な5メートルほどの竹を約500本、そしてそれを支える足には、みたけの森にある枝木約1200本を使用することになり、その伐採、運搬を土日に実施しました。

町有竹林と所有者さんから許可をいただいた私有竹林を中心に切り出しを実施、2月下旬までに約100本、3月中旬までに300本、そして4月上旬には何とか500本まで確保できました。

その後すぐ竹割り作業、節取り作業と、役場職員の応援もいただきながら作業が続き、ゴールデンウィーク明けにはいよいよ設置作業に着手、6月8日を完成の目標とし、連日設置作業が続きました。

竹レールは4メートルと2メートルの2種類を使用し、直線やカーブなど、そうめんの流れを考慮しながらの設置となりました。

《ギネス記録の達成へ…》

6月13日午前11時30分、みたけの森に設置された竹レールに、約150グラムのそうめんが流されました。

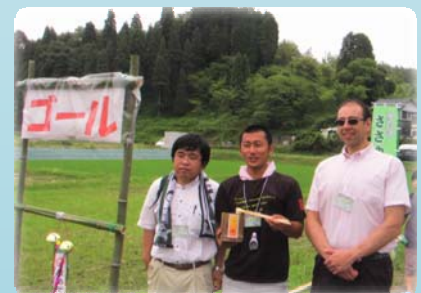
100メートル、200メートル、500メートル…思いのほか順調にそうめんは流れへアピンカーブも難なくクリア、ついにこれまでのギネス記録である1600メートル地点を通過しました。

続いて一番心配だった勾配の無い緩やかなコースも、そうめんは止まることなく流れ続け、福岡県が持つ日本記録の2345メートルもあっさりと通過し記録を塗り替えました。

そしてついに、待ちわびた瞬間がおとずれました…。スタートから約50分後の12時20分、竹で作った「ゴール」のアーチをくぐり、流しそうめんは2500メートル地点へと到着しました。

この半年間、「ギネスに挑戦!!!2500メートルの流しそうめん」を合言葉に、たくさんのみなさんの協力や助言、お叱りや温かい言葉などをいただきながら、目標に向かってチャレンジし、そして達成することができました。ゴールしたそうめんを口にした準備会リーダーの荻曾くんは、「みんなの気持ちがヤクミになって最高です!!」と叫びました…。

この流しそうめんプロジェクトは、気力・体力・技術力のほかに、「協力」という言葉も再認識させてくれたプロジェクトになりました。



ゴール後、立会人と一緒に…



「ギネスに挑戦！」

2500メートルの流しそうめん」

フォトアルバム



「竹レール」切り出し作業



切り出し～竹割り作業



節取り～設置作業

ゴールでそうめんの到着を待つ…、そして…



ご近所のみなさんもこの日ばかりは
駐車場から車が出せません…



日本記録更新、そして感動のゴール!!!